



令和3年度 岐阜県立郡上北高等学校 研究推進委員会 研究構想図

教科指導の重点 連携型中高一貫教育の目標

重点目標 読解力の育成

学びに向かう姿勢を育む

- ・「わかる喜び」を提供する
- ・「認める」「褒める」を重視する
- ・授業に見通しをもたせる
- ・家庭学習を支援する

思考力・判断力 表現力・創造力を育む

- ・探究させる課題を与える
- ・発言する場を設ける
- ・意見交流を重視する
- ・思考の変化を可視化する

具現化の方法 ICTの活用

確かな学力

- 地域に貢献するために必要な基礎学力。
- 将来、直面する未知の課題に対応できる応用力。
- 当事者意識の醸成し、自己実現のために学ぶ意欲。

自己実現

共に生きる力

- 他者の言葉の真意を正しく判断できる。
- 自己と異なる他者の考えを受容できる。
- 情報を整理し、適切な行動を選択できる。

協働

自立する力

- 他者と自己の考えの比較から、自らアイデンティティ（自分らしさ）を確立する。
- 自己の考えの変化や成長を省察し、適切な自己評価をすることができる。

自立

地域に貢献できる汎用的な能力を育む よき地域社会人の育成（不撓不屈の郡上人）

上記に示した汎用的な力はふるさと教育においても重要

ふるさと教育

小・中学校で学んだ、地域を「見る」「知る」「調べる」「考える」をベースに、ふるさととの活性化に向けた課題解決型学習に取り組む。

第3次
教育ビジョン

- ・読解力育成に向けて、各教科でどのような取り組みを実施しているかを知ることができ、授業改善の材料となる。
- ・日常の話題が授業のことで、普段の授業における困難さを他の教員と共有することができる。

- ・小・中学校の教員と交流することで指導方法の共有が可能となり、高等学校での指導方法を検討する情報になる。
- ・小・中学校におけるふるさと教育の実践を知ることによって12か年の「系統的な総合的な探究の時間」を模索できる。

研究推進委員会 企画・運営

9・12月 郡上北高校型授業研究会
「協働態勢づくり」
コンパクト授業研究会

小・中学校教員との交流
「指導法の共有」
異校種との授業研究

具体的な 取り組み

① ICTを活用し、情報活用能力を育成する

- ・タブレットを活用し、情報の収集と選択ならびに活用して課題に取り組む場面を設ける。
- ・プロジェクタを活用し、生徒の思考を発表し合い意見交流する機会を設ける。

② 答えのない課題を与え、意見を交流する授業の実施

- ・各教科で得た知識・技術を教科横断的に活用する場面を設ける。
- ・生徒が「探究」できる場面を設け、生徒間で考えを「交流」させる。
- ・生徒が協働的に最適解を導けるよう、授業進行のファシリテーターとして支援を行う。

③ 生徒自身が成果を感じられるポートフォリオの作成

- ・生徒に対して課題を提示し、本時に何を学ぶのかを明示する。
- ・生徒の省察（リフレクション）を重視し、変化を記録できるポートフォリオを導入する。
- ・授業のゴールをルーブリック等で具体的に示すことで見通しと達成感を与える。

連携中学校の
取り組み